明石のコミュニティ・スクール
未来にむけて 学びをかえる
未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

Twitter
YouTube

KomiKomiSukuSuku

For The Future
No.191
2022
12.19

明石市教育委員会事務局学校教育課　mail：gakkyo@city.akashi.lg.jp

「第３回みんなでラボろう～中央研修での学びを語る～」その２）社会とつなぐカリキュラム・マネジメントを開催しました

12 月 9 日（金）に「第 3 回みんなでラボろう～中央研修での学びを語る～」を開催しました。

今回はシリーズ第 2 弾として、本所指導主事が話題提供者として、ファシリテーターの畑指導主事と対談形式でカリキュラム・マネジメントについて考えてみました。

カリキュラム・マネジメントをどのように進めていくかといった方法論的なものではなく、なぜ、カリキュラム・マネジメントをおこなうのかといった本質論に軸足をおいた話がすすめられました。

カリキュラム・マネジメントが必要とされているのは、学校教育での学びが、社会とつながっていないのではという反省をもとに、学校教育を社会につないでいくために、子どもたちの学びを真ん中において、教育活動を考えていきましょうという切り出しから対談がスタートしました。教育課程を年間の指導計画としたら、カリキュラムは子どもの学びに焦点をあて、子どもの学びをどのようにつないでいくかを考えたものと、教育課程とカリキュラムを整理しながら話がすすんでいきました。教育課程をどのようにとらえていくか、カリキュラムをどのようにとらえるかといったことを、まず、校内で整理し、子どもたちの学びを見える化していくことが必要だと感じました。そのことは、参加された地域の方からも、学校の教育活動がブラックボックスで分かりにくいというご意見からも、これまではそのあたりが十分でなかったために、保護者の方や地域の方にとって、学校がどのような教育をすすめようとしているのか伝わりにくかったと考えます。子どもたちが身につけていく資質・能力が学校だけで、身につくのかと考えたとき、学校だけでは無理であり、これからの時代を生き、未来を創っていく子どもたちに必要な資質・能力を育んでいくためには、学校と地域と家庭がつながって、子どもの学びを紡いでいくことが必要だと話がすすんでいきました。

こうした話を受け、地域の方からは学校運営協議会でもどんな子どもを育てるるのかといった目指す子ども像を共有する必要があるなど、学校運営協議会の在り方や、そのもとになる学校教育目標の在り方についてもご意見を頂くことができました。

また、ややもすると、教育課程の編成や、カリキュラム・マネジメントが授業時数に焦点があたり、授業時数の確保が目的になってしまうことがります。それに対して、現在「ありがとうという存在からありがとうといってもらえる存在に」と縦と横の軸を考えたカリキュラム・マネジメントをすすめている松が丘小の先生から効果的に授業をつないでい

く中で時間を有効に使い、生まれてきた時間を、子どもにワクワク感を持たせられる時間に使っていけるように取組でいるというご意見もいただきました。

こうした話を聞く中で、ベースになるのは学校教育目標であり、目指す方向性として、学校教育目標がどれだけ学校・地域・家庭で共有されることが大切だということを改めて感じました。

今回のラボろうは対談をメインにした新たなパターンでしたが、なかなか緊張感があり、終わった後、2 人から出た言葉は「疲れた～」でした。そんな時間を共有していただいた参加者の皆さんありがとうございました。こんな時間をたくさんの方と共有できたらいいなと思っています。1 月 13 日のその３）社会とつなぐ・つながる道徳教育はどんな対話がおこなわれるか楽しみです。ラボろうを終えた本所指導主事より、次のような感想が届いています。

私が今回の「みんなでラボろう」から学んだことは、中央研修を受講しただけで自身が「学んだつもり」になっていたということを実感するとともに、研修で得られた知識や考え方を、再構築して他者に表現・発信することで初めて「学び」になるのだということです。

「3 日間もの研修の内容を相手に伝えることは容易ではない」と甘える自分と、そもそも自分自身が研修で得たことを相手に届く言葉にできないということは、イコール何も学んでいないのと同じだ！という厳しく律する自分との葛藤を晴らすことができました。やはり、研修を受けただけでは学んだつもりで実はそこまで学んでいなかったのです…。しかし、「みんなでラボろう」で話をする機会をいただき、畑指導主事の巧みなコーディネートの下、参加された先生方、地域の方のお考えを拝聴し、「ようやく学んだのだ」と自覚できました。

今回のラボろうでは、地域の方に参加いただき、ご意見までいただきました。その中で「学校教育目標」についての考え方、教職員の日々の様子などを地域の方目線でお話しいただき、はっとするような感覚を覚えました。それは心地よいもので、これまでも継続的にご参加いただいている方ということもあり、私たち学校現場の実態を理解していただいたうえで的確なご意見をいただきました。地域の方と対話するよさはここにあると思いました。私はこのような、感覚を常にからだに刺激として与えていく必要があると感じました。私たちの当たり前や凝り固まって考えようとしなかった前提を問い直すことを絶えず行っていくことが大切だと考えました。

少し抽象的な文章になってしまいました…。何より、次回のラボろうもぜひ多くの皆様と対話できることを楽しみにしています。ご参加いただいた地域の方、先生方ありがとうございました。

学校教育課　本所

※今回のみんなでラボろうは、動画で記録しています。動画を視聴されたい方がおられましたら、動画を共有させていただきますので、視聴希望、お名前、所属をご記入の上、下記アドレスまでご連絡ください。

※「第 3 回みんなでラボろう　その３）社会とつなぐ・つながる道徳教育」に新たに申し込まれる方は　ラボろう参加希望、お名前、所属をご記入の上、下記アドレスまでご連絡ください。

a_kitamoto@city.akashi.lg.jp 担当：北本まで

明石市立小中学校の先生方は校支援メールで学校教育課指導係まで

（文責：北本）